

不登校の子どもの教育相談におけるQ&A

国立特別支援教育総合研究所

5月から学校に行きません。家庭での過ごし方について相談します。

不登校の始まりの時期には不定愁訴を特徴とした身体症状が多く訴えられますが、そうした状態が一旦落ち着くと、昼夜逆転などが起こりやすく、生活リズムの崩れるケースが多く見られます。

不登校の期間は子どもによって違いますが、いずれは学校に戻る場合を想定して、生活リズムは大きく崩れないよう、規則正しく過ごすことは大切だと考えられます。また、学校、特に担任との連絡は密にしておき、子どもに登校への意欲が芽生えた時には、速やかに学校へ復帰できるよう準備しておくことも重要です。

不登校が長期に渡ってくると、子ども本人だけでなく保護者も心身ともに消耗してきて、家族のコミュニケーションも悪循環になることが多いですから、学校担任や教育相談機関等の専門家に相談してストレスを減らしておきましょう。

不登校が続いているので、これからの進路をどうしたらよいかと心配です。親としての対応のしかたを教えてください。

まずは、学校担任との連絡を密に取って、お住まいの地域にある進路可能な資源に関する情報収集に努めましょう。進路先がある程度絞れているのであれば、実際に見学したり、進路先の担当者と話をしたりする機会を作りましょう。ただし、保護者の希望で進路を決めるのではなく、子ども本人の意思を一番に尊重することを心掛けましょう。

不登校になっている子どもが最近荒れてきました。家庭での対応について教えてください。

不登校が長期に渡ってくると、子ども本人が焦り、追い詰められ、とても苦しみ悩

みます。家族だからこそ分かってもらいたい気持ちと家族だからこそ言えない気持ちとがぶつかり合います。子どもには教育相談機関等の専門家に相談してみるように勧めてみてください。

子ども本人が動けない場合には、保護者だけでも相談に行ってみてください。稀にはありますが、精神的な疾患や脳の病気などで乱暴になる場合もありますので、医療機関に相談して判断を仰ぐことも必要かも知れません。そうした重篤な問題があるかどうかを、まず教育相談機関等の専門家に相談してみることもできます。

不登校の子どもの進路はどうしたらよいでしょう？

現在のところ、義務教育段階では、学校に登校できていなくても卒業することは可能です。しかし、将来的に自立して生活していくことを考えた場合、やはり一人で生きていける能力を身に付ける必要はあります。進学するのか、就労するのか、いずれにしても現在の状態を把握した上で将来について考える必要があります。学齢期であれば、学校や教育相談機関等の専門家に相談できます。学齢期を過ぎた場合には、全国の自治体にハローワーク等の相談窓口が設置されています。

本人は学校に行かないといけなと思っているがいけない子どもへの対応はどうすればよいでしょう？

「学校へ行きたいのに身体がいうことを聞かない」という言葉は、不登校の子どもの多くから聞かれます。そしてこれは、とても辛くて苦しい状態を示しています。こうした苦しさを少しでも軽減する策として、例えば、教室に入ることは難しくても、保健室や空き教室等に登校することを行います。学校に行っていることで、気持ちが安定し好転していくことも考えられます。こうした策を取るには、学校側の理解と協力が不可欠です。まずは、担任を始め、校長先生や養護教諭に相談してみましよう。

不登校の原因はどういったものがあるのでしょうか？

不登校に単一の原因は考えられません。さまざまな状況が重なって起きてきます。例えば、分離不安、対人恐怖、精神疾患などが一因として考えられますし、虐待や経済的な困難、家庭の不和等が背景にある場合もあります。不登校を克服するためには、こうした背景を的確に見極めていく必要があります。専門家に相談することが重要です。

行動が乱暴な子どもへの対応をどうすればよいでしょう？

他人や自分を傷付けることに対しては、周囲の大人が毅然とした態度で止める必要があります。同時に、乱暴の背景にどのような理由があるのかを考え、子どもの言葉にならない気持ちに理解を深めていくことも重要です。特に背景に発達障害が考えられる場合には、事態が複雑になりやすく、一貫して継続的な対応が必要になります。教育相談機関等の専門家にアドバイスを求めてみることも考えましょう。稀にはありますが、精神的な疾患や脳の病気などで乱暴になる場合もありますので、医療機関に相談して判断を仰ぐことも必要かも知れません。そうした重篤な問題があるかどうかを、まず教育相談機関等の専門家に相談してみることもできます。

受験をひかえているが無気力な子どもにどう対応したらよいでしょう？

子どもにとって受験は人生の一つの山場であり、時には大きなストレスになることがあります。自分の将来を案じて、さまざまな想いや気持ちが交錯して身動きが取れなくなり、周囲の目には無気力と映る場合もあるでしょう。不安と向き合いつつ、自分の人生について考えることも成長にとっては重要な局面です。まずは見守る態度が求められます。ただし、子どもにも「うつ病」等の心の病気が多いことも分かっています。無気力状態が長期に渡る、食欲や睡眠が取れていないなどの心配があれば、医療機関等に相談して見る必要があります。